

はじめに

こんにちは。駒田奈緒子と申します。

まず、この本を手にとってくださりありがとうございます。

近くで私を知ってくださっている皆様いつもお世話になっております。

この本で初めて出会う方には、初めまして今後ともどうぞよろしく願います。

私が本を出すなんて一生縁がないと思っていました。何か特別なすごいことができるわけでもないですし、人生の大逆転をしたとか何かの成功者でもありません。国語も苦手だったし小学生のときの夏休みの宿題で出る読書感想文は最後の最後まで残っていました。

酷いときは本の最初に書かれている「あらすじ」をそのまま書いたこともありました。

絵日記なんて「今日は○○しました。楽しかったです。またやりたいです」ばかり書いていてまったく文章力ありません。

GalaxyBooks 株式会社編集の井之上さんが私のブログを見つけて連絡をくださったことがきっかけでした。先ほども書いたように私が出すなんてとんでもないと思っただけでお断りするつもりでしたが、なかなか本の編集者の方とお話してできる機会もないなと思い、お話だけ聞いてみようと思いました。

お断りする予定だった私が出すことを決めたのは、遺書というにはかなり大袈裟ですが「自分が生きた証になる」と思ったことと、「駒田奈緒子」という名前を残したかったことと、私を自分の思うようにしたい母親と母親の思うようにはなりたくない私の話と、何かに苦しんで生きてくづらいついてる人に届いて少しでも軽くなつてもらえたら嬉しいなと思い書くことにしました。

格好良く書きましたが本を出すことを決めたあとは、すごい決断をしてしまったんじゃないかという気持ちが押し寄せて数日間寝込みました。

この本が、どういう内容になっているかを説明します。

この本は、初めて明かす私の幼少期の振り返りと、そして今現在私が活動していることについて書きました。

本書で初めて私のことを知ってくれた方に簡単に自己紹介をさせていただきます。

三重県出身。職業は、フィットネスインストラクターをしております。

両親はちよつとお堅い職業で、私の下には弟がいます。

幼少期は、人見知りが激しくワイワイはしゃぐ子どもではなく、一人静かにぬいぐるみと遊んでいるような子でした。学生のころもまったくといっていいほど、目立つこともなく周囲と積極的に関わろうとしないタイプでした。

母親からは私を否定される言葉を言われた記憶しかなく、家出や転校を繰り返し親戚の家を転々とし、自分がやりたいことが何かもわからないまま自立しただけのためにたくさんのアルバイトを経験しました。

そんな生活のなか、スポーツ施設で水泳のインストラクターのアルバイトをしていたときに、そこで出会った人たちから大きな影響を受けました。遊ぶことも仕事もその人たちから教えてもらいました。

友達や知り合いが多く夢に溢れていて、やりたいと思うことはすぐに行動に移す人が多く私とは真逆の人たちばかりでした。こんなふうになりたいと思うようになり、目立つタイプではなかった私が「人前に立ちたい」「格好良くなりしたい」と思いフィットネスインストラクターという道に進み出しました。

この人たちに会っていなければ今の仕事にはつながっていなかったと思います。ちなみにこのときに出会った人たちとは今も仕事でつながっています。

母親の存在は社会人になってからも大きな存在でした。いろいろな人と出会っていることを学んだり気づいたりしながら自分の人生を歩んでいきます。